

新年の挨拶 乱世にこそ究極の平和を語ろう

世界連邦運動協会 会長代行 中野 寛成

明けましておめでとうございます。



2023年、世界人口は80億人を超えましたが、一方でコロナウィルスのパンデミック、ロシアのウクライナ

侵略戦争、加速する地球温暖化現象などによって世界の経済や人々の生命と生活が重大な危機に直面しております。

今や、いかなる国も人類も孤立しての存在はありえません。「地球は一つ」「世界は一つ」という言葉を実感する2023年となりました。しかし、この危機に対して現在の国際連合が効果的な成果をあげていないことに失望する考えもありますが、逆にこのような時にこそ前向きに発想を転換して国連を改革し、不足を補い機能を強化

し、新しい平和のシステムを確立しなければなりません。私たちは諦めることはできないのですから。

過去を辿れば、国際連盟も国際連合もそれぞれ第一次、第二次世界大戦の反省から人類の英知として設立されたものでした。ましてや、現在は「核兵器」の時代。第三次世界大戦は全体的破壊を意味します。絶対に許されません。

日本はその核兵器、原子爆弾の唯一の被爆国です。私も満4歳の時、長崎で被災し生家や祖父母をはじめ多くの親族を失いました。日本こそ「核兵器なき平和」の声を世界に発信する力と権利を持っています。

今年から2年間、日本は国際連合安全保障理事会の非常任理事国としての責任を担い、5月には広島で先進7カ国首脳会議(G7サミット)を議長として開催します。歴史的にも重大な危機の中にあって現在

と未来に責任を担い、「大ピンチを大チャンス」とする役割を果たすことを切望してやみません。そして、この重大な危機を現代に生きる全世界の人類の教訓として、「世界平和と共存の究極の道」世界連邦建設の第一歩として記念される2023年にしたいものです。

結びに、アインシュタイン博士と湯川秀樹博士の言葉をかみしめたいと思います。

「私が世界連邦を擁護するのは、いままで人間が遭遇した最も恐るべき危険を除く方法が他にありえないからである。全体的な破滅を避けようという目標は他のいかなる目標にも優位しなければならない。」(アルベルト・アインシュタイン)

「世界は一つ。世界連邦は昨日の夢であり、明日の現実である。今日は明日への一歩である。」(湯川 秀樹)

COP27の成果と今後の課題

1994年に発効した気候変動枠組条約の締約国会議(COP: Conference of the Parties)は1995年を第1回として毎年行われている。昨年11月にエジプトで行われたCOP27の成果と今後の課題について

一昨年のCOP26に触れつつ述べることにする。

2015年に合意されたパリ協定では温暖化上昇を産業革命前に比べて2°C未満より十分低く抑えるという目標だったが、

COP26では「1.5°Cへの努力の追求を決定する(resolves)」ことが明記された。一方、成果文書についてインド等が石炭火力発電の「段階的廃止(phase-out)」を「段階的削減(phasedown)」に変えるよう要求し、

決裂を阻止するため議長が涙ぐみ、声を
つもらせながら妥協するという一幕もあ
った。

COP27 では「石炭火力」にとどまらず、
「化石燃料の段階的廃止・削減」を提言す
る国が 80 カ国にものぼったが、合意には
至らなかった。

大きく進展したのはパリ協定 8 条「損失
と損害 (loss & damage)」の分野である。
この分野のための基金が設立されること
が決定された。この分野では先進国が抵

抗し、「既存の人道支援や防災では足りな
いのか 2 年かけて議論しよう」などと提案
した。2020 年以降年間 1000 ドルを途上
国に支援するという約束が果たされていな
いこともあり、途上国は先進国の提案に乗
らなかった。2 日間の延長の末、基金の対
象を「最も脆弱な (particularly valuable)
国々に狭めることで妥協が成立した。この
定義では国土の 3 分の 1 が水に浸かり
3300 万人以上が被災したパキスタンが対
象外になってしまう。

地球全体・人類全体の深刻な問題になっ
ているにもかかわらず、いまだに目先の国
益 (長い目で見れば国益にも反する) にこ
だわっている現状である。これというも、
国家代表が世界全体の議論を行なってい
ることに根本原因がある。世界規模の課
題は世界規模のシステムで議論するべき
である。世界連邦の創設がぜひとも必要
である。

(塩浜 修)

物理学者佐藤勝彦博士が日経新聞で世界連邦に言及

— 後日、木戸理事長らとオンライン対談 —

宇宙物理学者の佐藤勝彦博士が 11 月 2
日の日経新聞夕刊で世界連邦について言
及なさいました。記事では、ロシアによる
ウクライナ侵攻について触れ、「日本初の
ノーベル賞学者湯川秀樹、そしてスミ夫人
が熱心に取り組んでいた『世界連邦運動』
を思い出す。国際連合の強化、改革を通じ
て世界の法治の実現を目指す運動だ。(中
略) 湯川先生の運動を決して夢に終わら
せてはならない」と書かれていました。

これを読んで私たちは感激し、「ご挨拶
したい」と連絡をとった結果、11 月 25 日
午後 1 時よりオンラインで実現しました。
参加者は、木戸理事長、塩浜副理事長と
私(野田事務局長)の 3 人です。

佐藤博士は湯川博士の孫弟子にあたり、
湯川博士の思い出や人柄などを語って
くださいました。湯川博士の葬儀の際には
佐藤博士も受付をなさったそうです。また、

「世界平和アピール七人委員会」と連携す
ることを勧め、具体的な名前をあげて、「こ
の方に接触する際には自分の名前を出して
も良い」とまでおっしゃってくださいまし
た。また、日本が核兵器禁止条約の批准を
せず、締約国会議のオブザーバー参加さ
えしなかったことについて残念に思うと述
べられ、私たちも同感の思いを表しました。



私たちの運動の創成期には湯川秀樹博
士やアインシュタイン博士など、物理学者
が尽力なさっていたのです。その後、長い
年月を経て、湯川博士の孫弟子にあたる
佐藤勝彦博士が湯川博士の教えを覚えて

おられ、記事にしてくださったことに不思議
なご縁を感じました。今後も佐藤勝彦
博士とのご縁を大切にしながら運動に邁
進していきたいと思えます。

佐藤勝彦氏プロフィール：1945 年香川
県生まれ。宇宙物理学者。京都大学大学
院理学研究科物理学専攻博士課程修了。
理学博士。専攻は宇宙論・宇宙物理学で、
インフレーション宇宙論の提唱者として知
られる。北欧理論原子物理学研究所(コペ
ンハーゲン)客員教授、東京大学理学部助
教授、同大学大学院理学系研究科教授な
どを経て、東京大学名誉教授、大学共同
利用機関法人自然科学研究機構機構長、
明星大学客員教授。90 年仁科記念賞受賞、
2002 年紫綬褒章受章、2010 年学士院賞
受賞、2014 年文化功労者として顕彰。

(野田 武志)

カトリック平和のための国際集会へ参加

世界連邦運動協会執行理事 人類愛善会副会長 宮下 愛善

昨年 10 月 23~25 日の 3 日間、カトリッ
ク・聖エジディオ共同体の招聘を受け、イ

タリアのローマで開催された「カトリッ
クの平和のための国際集会」に出席し、世界

連邦の実現を願う内容を含むスピーチを
行う機会を 2 回いただきました。

この国際集会は1986年から毎年開催されており、世界の宗教代表者等約1000人が参加し、平和のための祈りと平和実現への意見交換を行なっている催しです。今年には日本からは7教団が招かれました。最終日の閉会式には、ローマ教皇が出席なさいました。



教皇ご出席の閉会式
(聖エジディオ共同体のWebサイトより)

私が携わります人類愛善会は、宗教法人大本(京都府綾部市で明治25年(1892)に開教)の平和活動を行う外郭団体です。大正14年(1925)に創立され、宗際活動(宗教間対話の活動)などを行なっています。大本・人類愛善会は、この集会に1989年から断続的に参加しています。

今年の集会は、ウクライナ紛争を意識した平和への強いメッセージを発信することがメインテーマでした。2日半の間に、開会式、14のテーマ別のパネルセッション、参加教団が別々の場所で同時に行う平和の祈り、コロッセオを会場とした閉会式ではローマ教皇のミサが行われました。

以下は、最終日に発信された「平和宣言」の一文です。

「人類は戦争を終わらせなければなりません。さもなければ、戦争が人類を終わらせることになるでしょう。」

「民族の和解に有効な薬である“対話、から共に再出発しようではありませんか」

このように、“対話、はこの集会の大事なキーワードとなっています。

しかし、開会式でのフランスのマクロン大統領の挨拶では、「ロシアに対抗する団結に宗教界も協力して欲しい」という内容があり、“対話、ではなく“対立、を煽る政

治家の言葉を耳にして、とても残念に思いました。

パネルセッションでは例年、「アジアの平和」などについての討議で、日本からの招請者を中心に私たちもパネリストとして参加していました。しかし今年にはアジアの教団関係者が集まる設定はなく、あらかじめ当方が希望したセッションで、小生のスピーチが予定されていたのです。会場は定員400のホールが満席となり、イタリアのメディアのトップ、ジャーナリスト3名、などが出席していました。大変驚いたのは、予定とは違う前日の別のセッションでも、突然に名前を呼ばれ、満席の会場の壇上でスピーチする機会があったことです。アジアに限定しない世界に向けたテーマセッションの場で、大勢の宗教関係者やメディア関係者を前に、意見を二度も述べる機会を得たのはありがたいことでした。



パネルセッションの様子
(聖エジディオ共同体のWebサイトより)



パネルセッションでの宮下発表

昨年5月号のニューズレターで掲載していただいたように、大本・人類愛善会は一貫して以下のことを唱えています。

「ひとつの神(万教同根)、ひとつの世界(世界連邦)、ひとつの言葉(エスペラント語)」

以下は、2回のセッションで行なったスピーチの骨子です。

「世界の正しい宗教の源はひとつ。私たちはひとつの大きな神のもとで兄弟同胞です。兄弟同胞が『世界連邦』のもとでの地球市民であることを意識し、中立的な共通語であるエスペラント語を使って、通訳の要らない“対話、ができれば、それは素晴らしいことだと思いませんか」

「人を天国的な気持ちで満たすのが宗教の大事な役割です。地上の天国を私たちは『みろくの世』と呼んでいます。『みろくの世』の実現のために共に祈りませんか。」

“ひとつの神、の主張を一神教の方々がどう捉えられるかが最も不安でした。スピーチを終えた後に、壇上でパネリストを務めていたオーストリアのユダヤ教のラビから、「素晴らしいスピーチだった、感動した」と握手を求められ、肩の力が抜けるようでホッとしました。こういう場に出席なさる方には「万教同根」が理解されると、別の安堵感も湧いてきました。

ウクライナでの軍事紛争を通して、世界の人々が“国連の力の限界、をあらためて感じています。国連の改革や、国連に代わる「世界連邦」の創設を、13億人のカトリック信徒をはじめとする世界のところある宗教指導者・信徒の皆さまに理解していただくことを切に願います。

どんな制度改革を行おうと、人々がエゴを離れて天国的な気持ちに満たされなくては、解決にならないことは明らかです。お互いに家族であるかのように、仲良く無事に過ごせ、毎日が嬉しく楽しいという天国的な気持ちになることが、人が本来持っている性のはずです。

安寧な世とは世界連邦によって導かれるものと確信しています。これからも熱意を持って実現を唱え続けたいと思います。世界恒久平和は決して不可能なことではないと信じます。共に元気を出して、朗らかな笑顔で進んでまいりましょう。

山根隆治先生のご逝去を悼む



世界連邦運動協会埼玉県支部の立ち上げに尽力し、事務局長を務められた山根隆治先生が12月10

日、肺がんのためご逝去されました。74歳。

山根先生は川越市議会議員、埼玉県議会議員を経て2001年の選挙で参議院議員に初当選し、同議員を2期務められ、2011年には野田内閣で外務副大臣に任じられました。私どもと出会う前から、参議院初当選の選挙のチラシに既に「世界連邦」という文言を掲げておられました。こういう方はほとんどおらず、驚き、また感激した私は、さっそく世界連邦日本国会委員会に勧誘し、ご入会いただきました。

政界ご勇退後、私とたまたま出会った際に、「これからの人生、3分の1は自分のために使い、3分の1は家族のために使い、3分の1は世界連邦のために使いたい」とおっしゃいました。世界連邦日本国会委員会に入会された先生方の中でも、ここまで世界連邦に情熱を注いでくださる方は中々いらっしゃいません。

その後、先生は埼玉県支部を立ち上げ、具体的な活動を積極的に実行なさいました。創立総会、世界連邦ステッカーの作成、埼玉県選出の国会議員に対する世界連邦日本国会委員会への勧誘（このため5名の国会議員の先生が新たに入会）などです。2001年に東京のJR新大久保駅でホームから落ちた日本女子学生を助けようとして犠牲になった韓国人留学生、李秀賢（イ・スヒョン）さんに対する追悼式への参列もなさいました。

埼玉支部を立ち上げ、さあこれからとい

う時にコロナ禍になってしまいました。こういうことがなければ、山根先生のお力と情熱でもっと大きなことができたことでしょう。本当に残念でなりません。

前号のニューズレターで埼玉支部主催「ウクライナの人々へのチャリティ講演と音楽の集い」の記事を掲載しました。盛会に終わり、埼玉新聞にも掲載されました。このイベントが山根先生とお会いする最後の機会となろうとは思いませんでした。このイベントを成功させることに山根先生は最後のエネルギーを注いだのでしょう。

世界連邦運動を愛し、この運動に情熱を注いでくださった山根隆治先生に哀惜の思いを込めて心からご冥福をお祈り申し上げます。

(塩浜 修)

世界連邦新聞1976年(昭和51年)12月1日第277号

湯川 スミ(世界連邦建設同盟会長) 自伝『苦楽の園』出版まで



毎年開催の世界連邦推進全国小・中学生ポスター・作文コンクールには、世界連邦の実現にむけて尽力された湯川スミ氏の名にちなんだ「湯川スミ賞」という特別賞を設けています。

湯川スミ氏は、世界連邦建設同盟(現世界連邦運動協会)の会長に就任し、自叙伝『苦楽の園』を出版なさった1976年12月

に、世界連邦新聞にも署名記事を執筆なさいました。テレビ出演や自伝の発刊について、同盟の仲間の皆さんへの感謝と気遣いなどお人柄がわかる優しい文章でその頃の活動の様子がつづられていますので、抜粋してご紹介いたします(漢字表記など、本紙の編集方針により改変した箇所があります)。本文中しばしば登場する「秀樹」は日本初のノーベル賞受賞者で世界連邦運動の創成期に活躍した湯川秀樹博士のことです。

なお、湯川スミ氏の自伝『苦楽の園』は、

amazonなどで中古本の購入が可能です。

(川口 美貴)

.....

一生を世連の実現に

今年はことのほか時候不順ですが、皆さまにはお障りもなく、世界連邦実現のためにご努力いただき、誠に有難く深く感謝いたしております。

昨年5月以来、主人秀樹の大病につき、今年8月には私の手術にて、申しわけもなきごぶさたをいたし、相すまぬこと心からおわび申し上げます。その間、皆さま

からお心からなるお見舞いのお言葉や、結構なお品々を頂戴しまして、私ども両人ともども、うれしい涙に明けくれる毎日でございました。

(中略)

皆さまの貴い真心のお力によりまして、こうして両人とも、もとの元気な体にもどしていただきました上は、これからの一生を世界連邦の実現のためにささげる覚悟でございます。至らぬ私どもではございますが、皆さまのお仲間に入れていただき、ともに実現する日の早からんために、できる限り力を注ぎたいと存じます。よろしくお願い申し上げます。

テレビ放送に大反響

昨年8月、病気の未だ癒えていない秀樹が、京都の国際会館で開催されたパウワッシュ会議(科学者たちの世界連邦運動)に車いすで参加しましたあと、NHKの鈴木肇プロデューサーが、他の取材のためヨーロッパへ出かけ、はからずも「湯川博士 婦人は、WAWF(World Association of World Federalists:世界連邦主義者世界協会、WFM(世界連邦運動)の前身)の婦人委員長として、世界各国に永年にわたり大きな影響を及ぼしている。夫婦そろって世界の平和のために命がけで努力している例は少ない。湯川家こそは世界連邦のひながただ」と聞いてびっくり、ヨーロッパ各国で色々しらべた末、帰国後すぐ宅へ来られました。

秀樹は、長時間テレビ出演はまだ無理だということで、12月初旬、スタッフ14、5人が京都へ泊まり込んで、毎日2時間ほどずつ、私たち二人の話を撮ることになりました。最初の日、鈴木健二アナウンサーと3人の話しあいを録画し、次の日からは、私たち家族(長男夫婦と孫二人同居)の録画どりに入りました。その少し前に「世界連邦京都婦人の会」の研究会を予定し

てまして、私の希望で、これも取り入れてほしいと、約百名の出演者とともに撮影されたのですが、長いものの中から、NHKスタッフの幹部数人で取捨選択の結果、30分番組として、『核・ガン・平和』と題して1月9日のテレビの画面に出ました。

この日はNHKも驚くほどに反響が大きく、スタジオの10いくつかの電話がひっきりなしにかかるやら「現代のような混沌とした地球に生きていてもしょうがないと悲観していたが、世界連邦という救われるみちがあることを知った。何とか仲間にはいりたい」といったような手紙が、何ヵ月も各方面から来ましたようで、後日、鈴木プロデューサーが録画テープを持参しての話でした。私が同盟事務所を教えてくださいましたら、早速訪れて、河村事務局長に会って、いろいろセッションをしていったそうです。宅へも電話や来客などでごったがえし、家族もうれしい悲鳴をあげました。

PRの必要性を痛感

遠い土地の方々には各地の同盟支部に加入してもらうよう申しました。新しい支部をつくってくださった方もあるようで、これによって「建設同盟も、今までよりも一段と積極的にPRする必要がある」とつくづく感じたことでした。

(中略)

自叙伝の発刊まで

私は外国むけには、長年にわたりたびたび世界各国の首脳者および夫人あてにアピールを出していますが、本としてはまだ出版の機会がありませんでした。ところが一昨年講談社の方が来て、私が7、8年前に「婦人公論」に5ヵ月間連載したものをリコピーしておいたとのことで「これは娘時代までだから、このあとのことを知りたいという読者が多いから、結婚後を書き足

して、1冊の本になさい」とすすめられました。秀樹も「自分は自叙伝『旅人』があるから、お前も自叙伝を書けよ」と申しますので、その本の中に自然に世界連邦の必要性を説くと、一般の人たちの心の中に無理なくPRできると思い、寸暇をみつけて書き始めていました。

ところが昭和23年から、アメリカに丸5年居住したあと、帰国して2、3年あとまで書いたところで、秀樹の入院さわぎで、そのまま看病に専念しました。講談社から「とにかく、今まで書いているものを見せよ」といわれ、近ごろの部分を書かぬまま原稿を渡しておきました。講談社の方が整理したところ、これだけでも多すぎて1冊にまとめるには、もう少し減らす必要があるとのことで、係の人の言うまま、ばさり、ばさり、と取り除き、そのあとへ次男の死と、秀樹の入院を書き足して、不備ながら出版の運びとなりました。

(中略)

人間の一生は苦しみが多いが、各自の努力で楽しみをつくることのできる。この地球上もこのままにしておいては、ご存じの通り、核兵器の競争や、公害などで、苦しみが重なってゆく。何とか、みんなの力で楽しい地球にしたいものだという祈りをこめたつもりです。

本の題名『苦楽の園』は、その意味をあらわしたものです。12月初旬には、店頭に出る予定で、表紙の絵も、さし絵も、稚拙な私の絵です。御笑覧いただき、一人でも多くの方にご披露いただければ光栄でございます。

同盟の会員の皆さまこそ、人類を救うのに、かけがえのない方々です。お体をお大切になさりながら、益々のご活躍を心からお祈り申し上げます。

新年のご挨拶を申し上げます。

今後とも世界連邦運動をよろしくお願いいたします。

令和五年 一月吉日

<p>世界連邦運動協会 関東愛善会支部</p>	<p>京都・大阪府支部 支部長 税所 貴一</p> <p>当支部では、今年も引き続き世界の恒久平和を築くために、大阪府内の小学校において、一人ひとりがこれからの世界平和について考える「出前・平和学習」を実施してまいります。 次世代を担う子どもたちのために！</p>	<p>NPO法人 神戸平和研究所 理事長 杉 浩二</p>	<p>世界連邦近畿協議会 会長 三宅 光雄 事務局長 高畦 孝一</p>	<p>世界連邦運動協会会長代行 中野 寛成 twitter @nakanokansei</p>
<p>世界連邦日本仏教徒協議会 〒235・0016 横浜市磯子区磯子8・14・12真照寺内 TEL 045・750・5526 FAX 045・750・5527 http://www.serenbutu.jp/</p>	<p>世界連邦近畿フォーラム</p>	<p>いま、一つの世界を 世界連邦宣言自治体全国協議会 会長 綾部市長 山崎 善也</p>	<p>世界連邦運動協会 愛善京都支部長 小佐々 晴夫</p> <p>世界連邦運動協会 広島支部 本部副会長・支部長 城 忠彰 理事長 神川 正紀 副支部長 河本 浩一 副支部長 藤井 正一 副支部長・事務局長 森下 峯子</p>	<p>世界連邦運動協会 神戸支部 支部長 池上 徹 事務局長 平岡 五城</p>
<p>綾部世界連邦運動協会 会長 鹿子木 旦夫</p>	<p>大阪愛善会支部 支部長 伊藤 忠茂</p>	<p>世界連邦日本国会委員会 ウクライナやミャンマーなどの情勢は世界連邦の必要性を示しています。 衆参両院での世界連邦国会決議を受け、政府が世界連邦実現に向けて最大限の努力をするよう、国内外の同志の皆さんとともに働きかけて参ります。</p>	<p>謹賀新年 世界平和の実現に向けて世界連邦運動を積極的に推進しましょう！</p> <p>世界連邦運動協会 石川県連合会 名誉会長 杉山 栄太郎 副会長 桑原 豊(会長代行) 副会長 上山 桂樹 理事長 平口 哲夫</p>	

<p>大本・人類愛善会 小林 龍雄</p>	<p>世界連邦加古川支部長 鹿多 証道</p>	<p>商売繁盛・縁結び・合格祈願 千代保稲荷神社 〒503-0321 岐阜県海津市三郷1980 海津市宮八入海津羽島線 お千代保稲荷前バス停下車</p>	<p>世界連邦運動協会 豊中支部 支部長 星野 慎一</p>	<p>世界連邦運動協会 四国ブロック協議会 愛媛県 松山市部 〃 新居浜支部 高知県 高知支部 徳島県 徳島支部 香川県 香川支部</p>
<p>世界連邦日本宗教委員会</p>	<p>有限会社 日本教育マネジメント 代表取締役 宮崎 太 〒770-0022 徳島市佐古一番町5-118 宮崎ビル</p> 	<p>世界連邦運動協会 武蔵野支部</p>	<p>世界連邦国際本部 副理事長 人類共栄会 会長 三宅 光雄</p>	<p>相続・贈与・登記・税務 黒澤 合同事務所 司法書士 黒澤 功記 税理士 黒澤 功栄 公認会計士 東京都中野区中野四一四一一 電話 〇三三三八八一九六三八</p>
<p>世界連邦運動協会町田支部 支部長 小塩 玄也 町田市玉川学園八一九一八一〇六 松香光夫方</p>	<p>世界連邦21世紀フォーラム支部 理事長 木戸 寛孝 副理事長 野田 武志 事務局 柴田 修</p>	<p>印刷金庫 株式会社 トイコー TEL 03-6416-5595 バッグ・メタル・カップ・トロフィー・楯・旗・記念品 株式会社アキバ徽章販売 TEL 03-5491-5786</p>   <p>なぜか一番はじめにみてもう？</p>  <p>目を惹く作りか 目広告せんか</p> 		

あなたも世界連邦運動協会の会員になって一緒に活動してみませんか

入会希望の方は、郵送かFAXまたはEメールにて、住所・氏名・電話番号・メールアドレスを本部事務局へお知らせください。またEメールでお申し込みの場合は、件名に『入会申し込み』と明記してお送りください。



WORLD
FEDERALIST MOVEMENT
OF JAPAN

世界連邦運動協会 本部事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂7-2-17 赤坂中央マンション303

電話 (03) 6438-9442 FAX (03) 6438-9443

E-mail info@wfmjapan.org

普通会員年額5,000円 維持会員年額10,000円 賛助会員年額15,000円

大島章宏氏が『平成政治奮闘記』を出版

世界連邦日本国会委員会の前事務総長、大島章宏先生が幻冬舎より『平成政治奮闘記』という本を出版なさいました。終戦直後に尾崎行雄先生が「世界連邦建設に関する決議案」を提出した熱い想いに大島先生は大変感動しており、議員ご勇退後も世界連邦日本国会委員会の行事にしばしば参加なさっています。著書には日立製作所勤務から始まり、県議会議員・国会議員としての体験、民主党政権時代の体験

や政治評論家森田実先生との対談などが載っています。356～357ページには少しだけ世界連邦のことにも触れられています。また、資料編では、373～375ページまで尾崎行雄先生による「世界連邦建設に関する決議案」・「世界連邦日本国会委員会創設宣言」に加えて、衆参での世界連邦国会決議全文が載っています。ぜひお求めになり、お読みください。

(塩浜 修)



本部と支部の主な動き

注：コロナ感染拡大の影響で変更になる可能性があります。

1月14日 はちどりクラブ新春フォーラム
1月19日 平和を考えるフォーラム支部オンライン学習会
19時～
2月1日 世界連邦文化教育推進協議会 第七回全国推進京都大会（リーガロイヤルホテル京都）

2月5日 富士山大賞授賞式 世界連邦文化教育推進協議会等共催 14時～
2月9日 京都大阪府支部交流会 11時30分～
2月16日 世界連邦運動協会執行理事会

編集後記

☆コロナの終息も先が見えず、戦争も停戦することなく 2023 年が明けました。また環境破壊による災害や経済破綻などの予測がメディアで報じられています。どのような事態が起ころうとも不安に押しつぶされることなく、少しずつでも世界連邦への道すじができるように微力ながら尽力したいと思います。(川口) ☆世界連邦運動協会は今年 8 月 6 日に 75 周年を迎えます。運動協会にとって飛躍の年となることを祈念し、またそのために努力したいと思います。(塩浜) ☆本号には、湯川秀樹博士の奥様・スミ先生と、孫弟子に当たる佐藤勝彦博士の記事が掲載されているので、お二方にご縁のある話を紹介することをもって編集後記に代えさせていただきます。私は 2003 年、湯川スミ先生に手紙を差し上げ、『世界連邦石川』第 28 号に寄せられた玉稿を石川県連合会のウェブサイト「石川 WFM 情報」に再録させていただきたい旨、お伺いを立てたのですが、ご返事がなかなか来ませんでした。2004 年 4 月に脳梗塞で入院中の私に、スミ先生から丁寧なご承諾のお手紙が届きました。先生のもとには世界各国から手紙が寄せられ、その一つ一つにご返事を書くのにとっても時間がかかるため、返事が遅くなってしまったとのことでした。2005 年 10 月 1 日、広島市で開催された第 25 回世界連邦日本大会に出席の折、スミ先生を囲んで女性たちが記念撮影をしているところに仲間入りし、私のカメラでも撮らせていただきました。スミ先生は 2006 年 5 月 14 日に逝去、先生からお手紙をいただいたのも、直接お会いする機会を得たのも、1 回限りになってしまったのは、とても残念です。世界連邦の必要性が益々高まっている現在、世界連邦運動に多大な貢献をなさった先生のご遺志を継いで粘り強く活動して参りたいと存じます。(平口) ☆ウクライナにおける戦争や緊迫する東アジア情勢の中で迎えることとなった 2023 年。人々の危機意識は高まっていくでしょうが、その中でもパニックに陥ることなく、我々の力は無力ではないと信じて、ひとつひとつ目の前のことに最善を尽くしていきたいと思います。(野田) ☆コロナ禍はまだまだ油断できない状況にありますが、イベントなどを行う関連団体も少しずつ出てきております。コロナ禍以前と同様に、お声をかけてくだされば、なるべく参加させていただきたいのでお知らせ願います。(谷本)

編集委員会 / 委員長：川口美貴 副委員長：塩浜修・平口哲夫 委員：野田武志・谷本真邦